

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

合言葉を「三笠はひとつ、三笠はならのまほろば」とし、奈良の中心地としての文化・誇りを再認識し、新たな郷土愛や誇りを育む。

【今年度の取組紹介】

○第14回子ども未来会議

今年度は、「時間割を創ろう！」～子どもたちが創る未来の小学校～をテーマとし、50年後の未来にタイムスリップし、小学校の先生になっていたという設定で、未来の小学6年生の時間割を考えてくれました。未来の小学校はどのように変化をしているのか、自分が先生になっていたらどんなことを教えたいのか、どんな新しい教科ができているのかなど、未来の小学校について話し合いました。小学生からはたくさんの意見が出され、中学生は司会進行をしながら、地域コーディネーターさんと一緒に意見をまとめ発表をしてくれていました。

○親善交流会事業「ミニ運動会」

新たな活動として、三笠中学校で「ミニ運動会」を開催しました。各小学校の3年生から6年生と地域コーディネーターさんをあわせて、3チームに分かれて、「お玉でピンポン」「風船をはさんで運ぼう」「玉入れ」の競技をしました。その他には、保護者や、大学生参画事業に参加している大学生や、各小中学校の先生にも競技に参加してもらいました。



【今年度のまとめ】

子ども未来会議では、リモートから対面での開催に戻すことができ、参加者は生き生きと意見交流をすることができました。参加者の感想には、保護者、教員からは、「中学生が上手く司会をしている姿をみることでよかった」「小学生が、仕事や経済に関して興味を持っていることに驚いた」「未来の三笠校区はどんな街になっているかをテーマにしてほしい」小学生からは、「人権のことを取り上げてほしい」「実際にあったらいいなと思って夢がふくらんだ」中学生からは、「小学生と一緒に意見を出し合って決めるのは楽しかった」などがありました。

【来年度に向けて】

地域教育協議会の活動の活性化のため、継続的な事業を進めていきながら、子ども未来会議などで出された子どもたちの意見を取り入れた新たな事業の可能性を提案・検討を続けていく必要があります。また、地域教育協議会の活動の活動への理解をより一層深め、多くの人々に参加してもらうための情報発信を続けていきたいと思っています。

めざす子ども像 **郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって**

未来を切りひらく子ども

取組目標 **保護者・地域と連携し特色ある学校・地域づくりを協働する。**

【今年度の取組紹介】

本校は地域教育協議会を『コミュニティ・スクール』の四つの部会である「学び支援」「育ち支援」「地域連携」「学校評価」の実働組織である「地域連携」として位置づけ活動しています。部会は、学校の教育目標を学校・家庭・地域で共有し、組織的・機能的に運営していくことで職員、保護者、地域の協働意識を高めるとともに、生徒の抱かえている課題をそれぞれの立場で把握し、具体的な活動に取り組み、課題の解決に努めています。教員が子どもと向き合う時間確保のため、図書ボランティア、キャリア教育など教育課程内にも支援を広げています。



さまざまな実社会で経験を持つ大人が工夫を凝らした授業を展開することにより、子どもだけでなく教員も課題解決力の向上や、明確な教員としての目的意識・責任感を養うことにつながっています。今年度は、新型コロナウイルス5類引き下げに伴い、対面の活動も増え、地域の清掃活動や地域の祭り等に参加し、地域の方々との活動を通して、社会性やコミュニケーション能力を育み、「生きる力」を培ってきています。またキャリア教育として様々な業種の方にお話をいただいたり、高等学校の先生方に模擬授業を行っていただいたりすることで卒業後の進路やその後の社会自立をしていくことに対する目的意識を持たせることにつながっています。



【今年度のまとめ】

コロナ禍が明け、様々な活動が再開される中で、コロナ禍前に戻すということではなく、新しい形も模索しながら実施を試みました。2年生での「ゲストティーチャー」を招いての「労働に学ぶ」はその中の1つの事業です。地域の方々には、教員とは違った視点から進路や職業について子どもたちに伝えて頂き、子どもたちの学びを支えていただきました。また地域で取り組んだPOPづくりを学校図書館の事業に活かし、図書ボランティアの方にその活動にちなんだコーナーづくりを開設してもらうなど、地域の活動と学校の活動を融合して取り組む活動も増えてきました。

【来年度に向けて】

これまで培った地域コミュニティでの協働体制を大切に、子どもたちのため、学校や地域のために活動することを通して、『みんなで支え、みんなで育てる』と同時に『学校・地域 みんなが育つ』ための核となる組織づくりを目標にさらに取り組んでいきます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

世界にはばたく世界で生きる椿井っ子

【今年度の取組紹介】

奈良市の中心部に位置し、多くの寺社や観光名所が校区内にある本校は、長い歴史と伝統を有する学校であり、地域の方の愛校心が強く、また学校教育に対する関心も高いです。そのため何事にも協力的です。こういった素晴らしい環境や地域の教育力を生かし、自分たちのまちに誇りをもつとともに、積極的に活動し、表現や発信のできる児童の育成を目指して取組を進めてきました。

昨年度までの制限がなくなったために、地域参画事業の防災学習において、のっぺ汁の振る舞いが行われました。学校地域支援事業においては、人・モノ支援センターの皆様の協力を受け、盲導犬学習を行いました。郷土学習事業雅楽鑑賞学習では、地域で活動している方に来校していただき、本物の雅楽を鑑賞して郷土に伝わる芸術を学ぶ機会を設けることができました。



【今年度のまとめ】

学校の教育活動に非常に協力的な地域の方々に支えられて取組を進めていくことができました。地域行事が例年に戻す形で行われるようになったことで、行事に参加する児童も増えて、一層郷土愛が育まれました。また、環境整備事業においても、学校や地域を大切に思う方々の存在に子どもたちが改めて気づき、感謝する気持ちを育てることができました。

【来年度に向けて】

来年度は、今まで続けてきた取組の見直しを行い、継続を基本線として可能な範囲での精選を検討していく予定です。これまで協力していただいた地域の方々を大切にしながらも、新たな地域人材の活用など取組をより発展させ、本校の教育目標の達成を図れるようにしていきたいです。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に 誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

やさしく、温かく、さわやかな 大宮の風の中で学び、
たくましい子どもを育てる大宮アクション

【今年度の取組紹介】

◆図工サポート・家庭科サポート・生活科サポート

昨年度に引き続き、図工・家庭科・生活科の授業をサポートする取組を行いました。図工サポートでは、児童がカッターナイフや電動糸のこぎり等を使う活動の時に、児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。家庭科サポートでは、ミシンを使う裁縫等の実習の時に同じく児童の安全確保と学習支援のために来ていただきました。各班に1人ずつ入っていただけるほど、家庭科サポートは非常に心強いサポートになりました。生活科サポートでは、お手玉やあやとりなどの昔遊びを講師として子どもたちに教えに来ていただきました。



◆環境整備事業

10月9日に地域の方々に、運動場の草引きや木の剪定など、学校内の環境整備を子どもたちのために行っていただきました。登下校の見守り活動や環境整備事業など地域の方々の協力により、子どもたちの安全が守られているのだと、改めて感じる事業の1つです。

【今年度のまとめ】

上記の取組以外にも夏休み中の「おおみや未来塾」、そして年間を通しての図書室の環境整備など、地域の皆様の支援をいただきながらたくさんの取組を実施することができたことに感謝で一杯です。この地域と学校の繋がりが「郷土を愛し、夢と希望を持ち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども」の育成に大切な役割を果たしていると思います。

【来年度に向けて】

地域ボランティアの方々の高齢化に伴い、新しいボランティアの発掘が今後もまだまだ必要になります。また、コーディネーターさんの負担軽減などをまだまだ検討していく必要があります。そして、新しい取組として防災教育事業にも力を入れていこうと思っています。そして、学校ホームページ等様々な方法を用いて情報を発信し、さらなる協力者を募っていきたいと思います。

めざす子ども像 **郷土を愛し 夢と希望をもち 自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標 **自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる児童を育成するための地域教材や人材を生かした取組の充実。**

【今年度の取組紹介】

今年度はゲストティーチャーを招いた「子どもの力を高める事業」「地域とともに学ぶ事業」に重点をおいて、取り組みました。

「子どもの力を高める事業」では、アーティストのドミニク氏を招き、6年生を対象とした「英語でアート」を行いました。この取組はドミニク氏が子どもたちに英語で指導をし、建物をドローイングで描かすというものです。すべて英語での指導ですので、戸惑う子どもがいましたが、アシスタントの方が日本語でアドバイスしてくださったので安心して取り組んでいました。子どもたちが描き上げた絵をドミニクさんが写真のように、一人ひとりが描いた建物を立体的に配置し一つの作品に仕上げてくださいました。



「地域とともに学ぶ事業」では、大安寺西地区自主防災防犯会の方を招き、4年生を対象に防災についてお話をしていただき、本校に設置している防災倉庫の見学をさせていただきました。実際に大安寺西地区で防災に携わっている方のお話を伺うのは、子どもたちにとって身近な学びとなり、防災について考えを深める機会になりました。この取組は総合防災訓練前に行いましたので、子どもたちから「防災訓練に参加したい。」という声を聞くことができました。本取組を通して、子どもたちの防災意識を高めるとともに地域の防災を考える機会になればと取り組みました。

**【今年度のまとめ】**

アフターコロナになり、制限が緩和され、様々な取組を積極的に企画することができました。ゲストティーチャーの招へいだけでなく、環境整備活動においても子どもと地域の大人が一緒になって活動することができました。地域の大人と一緒に活動することにより、子どもたちだけでは気が付きにくいことも地域の方の姿を見て、学ぶ場面をふやすことができたのではないかと考えています。

【来年度に向けて】

地域にはいろいろな特技をお持ちの方が多くいらっしゃると思います。地域と学校が協力し合って、子どもたちの自尊感情を高めることができるような取組を創出し、目指す子ども像に迫ってきたいです。しかし、地域の高齢化などに伴い、地域人材の確保が厳しくなっている状況があります。情報発信を工夫し、地域・学校・家庭が一体となり、「自尊感情をもち、地域・仲間とつながって健やかに生きる子ども」を育んでいきたいと考えています。

めざす子ども像 **郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをも****って、未来を切りひらく子ども****取組目標** **地域にある自然環境や文化的歴史遺産、さらには、地域の豊かな人材を活用しながら、心豊かで人や物にやさしく、地域を愛する子どもを育む。****【今年度の取組紹介】**

《学習支援》家庭科の学習支援では、「ミシン指導」「調理実習補助」に約30回、延べ150名以上の地域の方々に来ていただき、子どもたちの学習支援を行っていただきました。各班1名、地域の方に補助についていただいたおかげで、子どもたちが困ったとき、わからないときに気軽に質問をして支援をしていただくことができました。教えていただいた回数も多いことから地域の方と顔見知りになる5、6年生がたくさんいました。また、1年生の昔遊びの遊び方、2年生のおもちゃ作りの学習支援では、とても楽しく優しく教えていただいたおかげで、子どもたちがいきいきと活動することができました。教えてもらった後の休み時間も、竹馬に乗ったり、こまを回したり、作ったおもちゃで楽しく遊んだりすることができました。



《プロに学ぶ》「ギコギコとんとんクリエイター」（のこぎりの使い方を学ぶ）（4年生）を地域の工務店の方に、また、「園芸指導」（園芸委員会5・6年生）を地域の花屋の方に来ていただき、プロの方から技術面だけでなく仕事への思い等キャリア教育につながることも教えていただくことができました。子どもたちは、真剣に話を聞いて、教えてもらったことをもとに活動に励んでいました。

【今年度のまとめ】

これまで行っていた内容はもちろんのこと、今年度より新しく「地域史跡巡り」（本校周辺の古墳について学ぶ）（6年生）を地域史跡の詳しい方に、園芸委員会（5・6年生）「園芸指導」を地域の花屋の方に、おもちゃ作りの学習支援（2年生）を地域の方にお願いして、学習することができました。

教職員だけでは教えることが難しい、より専門的な学習内容を楽しんで学べたり、地域の方の思いや考えを知ったりすることで、子どもたちがこれまで以上に学習に興味を持ったり地域を誇りに思う気持ちを育んだりすることができました。

また、今年度は地域コーディネーターとして地域の民生児童委員さんに日程調整やボランティア募集等をお願いし、これまで以上に学校と地域各種団体などを結んでいただいたことで、大変スムーズに活動を行うことができました。

【来年度に向けて】

体験的な活動を通して、地域の方々と触れ合い、佐保川小学校の校区を愛し、地域に誇りをもつ子どもの育成を目指したいと考えます。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇りをもって、未来を切りひらく子ども

取組目標

地域の人との関わりや自然環境、教育力をいかした体験を構築し、豊かな心とたくましい体を培い、自尊感情を高め何事にも意欲的に取組む。**【今年度の取組紹介】****《地域で学ぼう事業 お茶会を体験より》**

西方寺様でお茶会の体験をしました。玄関から廊下にかけて秋の草花が生けられて自然に親しむことができました。子どもたちは相手を思いやる気持ちをもってお茶を点てることや思いを受け止めてお茶をいただく作法などを教えていただきました。厳粛な雰囲気の中で、子どもたちは正座をし、背筋を伸ばして臨むことができました。また、庭には防空壕が残っていて自分たちが住んでいる奈良にも空襲があったことを知り、平和学習にもつながりました。

**《地域で学ぼう事業 木工で遊ぼうより》**

スギやヒノキ等の木材や山の話や、家が出来上がるまでの工程を写真を通して教えていただいたりしました。子どもたちは自分の作りたいものを描き大工さんや設計士さんに見せ、必要な木切れを選び、つくり方を相談したり形を切ってもらったりしました。初めて使う金槌は、徐々にコツが分かって上手になり、根気強く取り組んで作品に仕上げることができました。自然環境を守ることの大切さも知ることができました。

**【今年度のまとめ】**

今年度開園し初めての地域で決める予算事業でしたが、昨年度の取組を参考にしたり、地域の方と相談したりしながら進めることで、より地域の方との関わりが広がり、子どもたちにとって豊かな体験活動を実現することができました。

地域の様々な環境（人・もの・こと）に関われる事業内容を実施することで、子どもたちは人と関わって初めてのことを学ぶ楽しさを味わい、主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度が見られました。

【来年度に向けて】

地域の温かな人材と豊かな文化遺産を活かした体験活動を来年も継続していくとともに、事業内容や計画、取組の成果などをもっと家庭や地域に広報することで新たな人材や遺産の発掘にも務めていきたいと思います。また、各事業の成果や課題を踏まえながら地域の方との打ち合わせを綿密に行い、より充実したものにしていきたいと思います。

めざす子ども像

郷土を愛し、夢と希望をもち、自分自身に誇**りをもって、未来を切りひらく子ども**

取組目標

- ・子どもたちの興味・関心に基づいた直接的・具体的な体験活動の実施
- ・子どもが主体的に活動できる環境の構成

【今年度の取組紹介】

〈学習支援事業（体づくり）〉

運動遊びを通して子どもたちが健康でより意欲的に活動できるようにと考え、前年度より継続で地域のコーチ等に来ていただき『体操教室』『体育教室』『チャレンジクラブ』を行いました。子どもたちが進んで体を動かしたくなるように工夫してくださり、子どもたちは毎回楽しんで行うことができました。また保育士も体づくりや運動あそびについて学ぶことができ、日常の保育に取り入れています。



〈伝統文化体験事業（生け花教室）〉

地域の方に先生として来ていただき行いました。子どもの育ちや興味に合わせて活動内容を考えてくださり、いろいろな体験をすることができました。初回は園庭の草花を見つけ、好きに生ける体験をしたことで、家庭や園生活に取り入れる姿が見られました。他にはオアシスに生ける体験、押し花体験など、子どもたちが興味をもち楽しんで体験する姿が見られました。また花に興味をもち登園時に見つけた花を摘んで来たり、見つけた花について調べてきたことを生け花の先生に話したりしていました。



【今年度のまとめ】

体づくりの活動を増やしたことで、子どもたちは心身ともに活動的になり、興味が広がるとともに、意欲的に活動するようになりました。また地域の方に野菜の苗の植え方を教えていただき、それを使った焼きいもにも来ていただき、一緒に体験することで、地域の方に親しみをもち接するようになりました。子育て支援事業では、地域の方と共に子どもを見守り、保護者の方に寄り添いながら、親子で楽しんで参加していただけるように取り組んできました。取組を HP など保護者や地域の方に啓発していくことで、園の様子を知っていただくことができ、保護者の方には様々な体験をさせてもらい喜んでいただいています。

【来年度に向けて】

今年度取り組んできた活動をもとに、来年度の活動内容について職員や地域の方と打ち合わせをしつかり行い、子どもたちの主体的な活動につながるような体験を取り入れていきたいです。また、来年度より0歳児から2歳児の受け入れを開始することから、新たな取組や内容も取り入れていきたいと考えています。